

# プッチーニ作曲 歌劇「ラ・ボエーム」

161113

幕	場	場面	内容	分	主な歌う登場人物						見どころ	
第一幕 35分	1	4人の芸術家達の生活	パリのカルチェ・ラタンの薪さえもない冷え切った屋根裏部屋で、詩人ロドルフォ、画家マルチェルロが仕事をしている。ロドルフォが寒くて自分の原稿を薪代わりにしている。哲学者コルリーネがぼやいて帰ってきたあとに、ショナールが、たまたま稼いだお金で食料・薪を買って持って帰ったので、部屋に蠟燭が灯った。	17	10	ロドルフォ			マルチェルロ	コルリーネ	ショナール	
	2		四人は、3ヶ月分の家賃を集金に来た大家のブノアにワインを飲ませて酔わせ、追い返してしまう。クリスマス・イヴの夜なので、みんなで街に出ることになったが、ロドルフォは、原稿書きがあるからと、5分待つように言う。		7	ロドルフォ			マルチェルロ	コルリーネ	ショナール	
	3	ロドルフォとミミの出会い	階下に住むミミが、クリスマスイヴの夜寂しさを紛らわすために、ろうそくの火をもらいに来る。火をもらうが紛失した自分の部屋の鍵を探しているうちに、二人のろうそくの火が風で消えてしまう。カギを探すうちに手が触れあう。ロドルフォは詩人、ミミはお針子、自己紹介しあう。	18	13	ロドルフォ	ミミ					ロドルフォとミミの歌
	4		来るのが遅いので催促されるが、カフェ・モミュスに先に行ってもらうことになった。ロドルフォとミミは意気投合し、キスし、ミミもついて行くことになった。		5	ロドルフォ	ミミ		マルチェルロ	コルリーネ	ショナール	
第二幕 20分	1	みんなにミミを紹介する	ロドルフォは、ミミに帽子を買ってあげて、マルチェルロ達に合流し、クリスマス・イヴの夜のカルチェ・ラタンにあるカフェ・モミュスで楽しむことになった。	20	10	ロドルフォ	ミミ		マルチェルロ	コルリーネ	ショナール	
	2	よりを戻すマルチェルロ達	マルチェルロの元恋人のムゼッタと鉢合わせする。二人は結局よりを戻すことになり、店の支払はムゼッタの連れの紳士であるアルチンドロに回された。		10	ロドルフォ	ミミ	ムゼッタ	マルチェルロ	コルリーネ	ショナール	ムゼッタのワルツ
第三幕 25分	1	嫉妬と思いやり	翌年の2月頃、ダンフェール門の市外との関税所前。マルチェルロは、1ヶ月前から近所の居酒屋で看板書きをしている。ムゼッタも一緒に、そこのお客に歌を指導している。ミミがマルチェルロに会いに来た。ロドルフォの嫉妬が激しすぎて、困っておりどうすればよいか、相談してきたのである。	15	10		ミミ		マルチェルロ			
	2		昨夜ミミから別れてマルチェルロに会いに来たロドルフォは、ミミの病気が重く、自分では助けられないから、別れた方が良く、と思っている、という。		5	ロドルフォ	ミミ		マルチェルロ			
	3	円満な別れ	ミミはロドルフォに別れを告げ、イヴの時に買ってもらった帽子は取っておいて欲しい、という。	5	ロドルフォ	ミミ						
	4	別れるマルチェルロ達	嫉妬するマルチェルロと自由が欲しいというムゼッタが言い合いをして、別れることになる。ロドルフォとミミは、冬の一人暮らしは寂しいので、春に別れることにした。	10	5	ロドルフォ	ミミ	ムゼッタ	マルチェルロ			
第四幕 25分	1	第1幕と同じ屋根裏部屋	数ヶ月経過した屋根裏部屋で、ロドルフォとマルチェルロは、それぞれ、別れたミミとムゼッタが忘れられずに、仕事が手につかない。コルリーネとショナールが戻り、暖かくすべく決闘ごっこをする。	18	7	ロドルフォ			マルチェルロ	コルリーネ	ショナール	
	2	ミミの死	金持ちの家で過ごしていたミミであるが、ロドルフォのところで死にたいと、ムゼッタに連れられてきた。各自、ミミのために医療費を捻出しようと出かける。		7	ロドルフォ	ミミ	ムゼッタ	マルチェルロ	コルリーネ	ショナール	コルリーネの歌
	3		二人きりになり、出会った頃の話をしたり、イヴに買った帽子を見せたりする。		6	ロドルフォ	ミミ					
	4		みんなが戻りムゼッタが持ってきたマフでミミは暖まる。しかし、ミミはみんなに気づかれないうちに息絶える。気がついたロドルフォは泣き伏す。		5	ロドルフォ	ミミ	ムゼッタ	マルチェルロ	コルリーネ	ショナール	

(注)紙の音がするので、開幕中は、このA4紙をしまってください。